

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 5 月 31 日

事業所名 シルビアンレクトレセンター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	全体的に広く、また活動内容や児童の情緒、用途や状況によって使用する部屋(大部屋、個室、畳間等)を分けることができています。	多機能型事業所で年齢層が幅広く、中高生が走り回ったり、不穏な状況になった際に幼児と衝突や他害行為による事故が想定されます。ヒヤリハットや事故防止の為、職員の見守りを今後もより一層強化していきます。また、部屋がたくさんある分、児童が一人きりにならないよう職員の配置は工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切である	5	1	日や曜日により児童の見守りや対応が手薄になる場合もあるが、声かけや見守りを工夫し職員間で連携をとっています。	男性より女性職員が多く、男児の利用者は2/3以上。職員の休み状況によっては男児の対応が困難な場合がある為、バランスよく配置できるよう改善していきます。また、マンツーマン対応が必要な児童も多い為、現状よりもさらに多く配置が必要か否かを検討していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	外階段に手すりが設置されたことで歩行困難な児童や幼児も自力歩行で階段昇降ができるようになっています。また、数年前に改装した際に室内はほぼバリアフリー化されており車椅子の児童も過ごしやすい状況に整備されています。	現在、事業所に上がる手段が階段のみの為、肢体不自由の児童を抱き上げて階段昇降しています。スロープやリフトがあると安全かつ職員の負担軽減になる為、検討していきます。また、男女トイレにも段差がある為、折り畳み式等の簡易スロープ導入も視野に入れていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	全部屋の掃除、玩具洗いや消毒等をほぼ毎日行い清潔保持に努めています。	児童本人だけでなく、保護者の方々も安心して利用ができるよう今後も安心安全に十分配慮していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	日々の支援や療育だけでなく、活動や行事のPDCAサイクルも行っています。業務終了前後や職員ミーティングを通して全職員が参画できています。	長期休暇等は定期的な職員ミーティングの開催が困難な為、開催日や時間帯などを工夫して定期で行えるよう考慮していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	保護者から頂いた評価表アンケートを全職員で共有し、業務改善に繋がっています。	結果をもとに保護者の意向やニーズをしっかりと把握し、改善策を考えながら全職員で今後も質の向上を目指していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	0	毎回公表しています。	評価表の結果を踏まえ、業務改善に向け見直しを行っていく予定です。ホームページで公開しています。公開していることを知らなかった職員もいる為、どこでどのように公開されているか周知していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	他部署だけでなく学校や他事業所、相談支援からの評価も聞き入れ、業務改善を行っています。	今後は、第三者による外部評価を行い、より一層業務改善に繋がっていただけるよう検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	リモートの研修が増えてきていますが、どこでも参加できる為、職員の研修参加率が増加しています。	一方、コロナ禍が続いた為、社外の研修へ参加する機会がなかった職員もいました。今後はリモートの研修も含め、職員の質の向上を図る為、積極的に参加できるよう案内等を周知していきます。また研修へ参加した職員は不参加の職員へ伝達できる場も提供していきます。
適切	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	アセスメント、モニタリングを行い、現状把握やニーズ等を分析し、計画書に反映しています。	職員ミーティングや業務終了後等、全職員からも客観的な意見の表出、分析が行える時間の確保をしています。児童発達支援管理責任者に限らず、全職員が分担して各児、最新のアセスメントを更新していけるよう努めています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	アセスメントシートを使用し、状況把握や課題分析を行っています。	個人情報漏洩には十分配慮しながら、アセスメントシートや児童の現況記録などをいつでも全職員が閲覧できるようにしています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	必要な項目をしっかりと見極め、分析し支援内容を設定しています。	今後も継続できるような努めていきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	計画に沿った支援を提供できるよう、定期的に内容の確認を行っています。	今後も継続できるような努めていきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	ミーティング時や業務中に全職員で意見を出し合い、翌月に行う活動を考案しています。	行事に関しては一部の職員で決める事が多い為、行事についても全職員で話し合い決めるようにしていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
多 な 支 援 の 提 供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	毎月初めに児童を含めた事業所会議を行い、翌月のやりたいこと、行ってみたい場所を話し合っています。また、職員間でも案を出し合い、マンネリ化しないよう「静」「動」や季節や伝統行事などの活動も組み込み、工夫しています。	児童の要望を取り入れるだけでなく、保護者、また他部署や地域からの意見や要望を募り、ニーズに合った活動がより多く行えるよう検討していきます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1	利用時間帯や利用児童によって、活動内容を検討、課題を設定しています。	休校時や長期期間中の課題は細かく設定できていない為、事前に全職員で立案し、設定できるよう努めていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	児童の状況やニーズ、特性を考慮し、個々に合わせ計画を作成しています。各児童にどのような活動が適しているのかを職員間で話し合っています。	月で見比べると集団活動が多く偏っている為、個別の活動をもう少し増やしていけるよう見直していきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	時間の大小やツールはさまざまですが、毎日打ち合わせを行っています。役割分担については前月や前日には決めています。	今後も打ち合わせ時間が設けられない際は事前に個別LINEやグループLINEで連携を図り、情報の共有を行っていきます。直接対面のミーティングの方が細かい内容まで話し合いや情報共有が出来る為、対面のミーティング時間をもっと確保できるよう改善していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	職員の勤務時間が多種の為、振り分けや気づきはグループLINEで共有したり、翌日に直接伝えるようにしています。また、ミーティングで改めて情報共有を行っています。	現状維持ができるよう、また共有だけではなく各職員が積極的に改善や立案できるよう取り組んでいきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	毎回、支援内容に沿って記録を行っています。その内容をもとに振り返り、改善にも繋がっています。	誰が見てもわかりやすい記録、さらに内容の質を上げていけるよう努めています。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	毎回、児童発達支援管理責任者が出席しています。必要に応じて、児童指導員の同席もしています。	児童発達支援管理責任者だけではなく、現場で支援している児童指導員も積極的に参加できるよう考案していきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	関係者と相互で連絡を取り合い、情報交換や共有を行い、連携した支援ができるよう努めています。	今後も継続できるよう努めています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	6	対象児童はいません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	6	対象児童はいません。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	移行前に電話連絡や会議の場を設け、情報交換を行っています。また、先方や保護者の同意も得て見学情報収集をしています。	移行前だけではなく、移行後も困難な対応時や確認すべきことはすぐに情報共有できる関係づくりを築けるようにしていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	移行前に電話連絡や会議の場を設け、情報交換を行っています。また、先方や保護者の同意も得て見学情報収集をしています。	移行前だけではなく、移行後も困難な対応時や確認すべきことはすぐに情報共有できる関係づくりを築けるようにしていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	支援が困難であったり、保護者や関係機関からの要望があれば支援会議を行っています。	要望がなくても積極的に連携していけるよう検討していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	6	コロナ禍により感染拡大を鑑みて、他施設との交流を設けることができませんでした。	今年度からは障害のない子どもたちとの合同行事や活動を企画したり、または外部の行事に参加できるよう考案していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	1	5	コロナ禍により感染拡大を鑑みて、参加することができませんでした。	コロナの収束後は外部の行事に参加できるよう考案していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	連絡帳への記載だけではなく、送迎時、児童の様子やまたは気づきを保護者へ申し送っています。また、状況の変化があればその都度電話やLINEで報告しています。	今後も児童の支援だけでなく、保護者のレスパイトケアも含め、共通理解を深めていきます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	0	事業所での成功体験、療育の手段等を保護者へ連携しています。	保護者へもわかりやすく伝わるよう、口頭だけではなく動画や実践を見せていくよう努めています。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に運営規定は丁寧に説明を行っています。支援内容や利用者負担が発生する際はその都度、保護者へ説明しています。	行事や活動に係る利用者負担については直前に確認する事が多い為、今後は余裕をもって事前に伝え同意をとるよう努めます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	全員、同意を得ています。	今後も説明と同意は徹底して行っています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	子育て問題に関わらず、家族支援も積極的に行っています。	保護者からの相談や話を待つのではなく、話しやすい雰囲気や関係性づくりを図り、遠慮せず話ができるような信頼関係を築いていきます。また、助言や支援が行えるよう知識も増やしていくよう努めます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	コロナ禍の前までは行っていましたが、昨年も同様、今年度も実施できませんでした。	今年度からは事業所内外で保護者参加の行事や活動を企画し、保護者同士の交流や情報共有の場を設けられるよう検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	苦情や要望があった際は必ず内容を確認し、分析を行いその都度対応しています。迅速な対応、解決を常に意識しています。また、職員間でも情報共有し再発防止に努めています。	今後も苦情が減少するよう、日々の支援、対応方法や業務態度などの見直しまたは事例検討を行っていきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	毎月、事業所内外で行った活動、行事の内容や写真を掲載した通信を保護者向けに作成し、配布しています。口頭や文面では伝わりづらいことも写真を通して保護者の方へ見てもらいやすくなっています。	今後も継続して作成し、配布していきます。発行が遅れてしまうこともある為、遅れずに発行できるよう工夫していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	個人情報扱う書類や写真等、事業所で使用する物については漏洩防止の為、管理を徹底しています。	今後も継続して漏洩防止に努めていきます。
	39	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	保護者や職員間で相談し、個々にあった手段で意思疎通(ジェスチャー、手話、マカトサイン)を図り、配慮を行っています。	児童は成長と共に、意思疎通の方法や手段が変化していく為、その都度保護者や職員間で話し合って最適な方法で意思疎通を行っていきます。引き続き、学校や自宅、併用事業所等とも連携を図ります。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4	コロナ禍により積極的に招待はできませんでしたが、屋外で交流を図る事はできました。	今年度からは事業所で行う行事や活動に地域住民を招待できるよう企画していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧できるよう決められた場所へ保管しています。	内容が古い為、見直しを行い、新しい情報を追記したものを作成します。保護者への開示はできていない為、契約時や年度初めに周知できるよう努めます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	年に2回以上の訓練を実施しています。内容もその都度変更し、さまざまな状況でも対応できるよう訓練しています。終了後はその場で振り返りを行って記録も残し、次回の訓練に生かしています。	事業所内での訓練のみの為、今後は外出先での非常災害を想定した訓練も検討していきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	契約時だけでなく定期受診後などに医師の話や服薬の状況等を報告いただくよう依頼し情報収集や職員間で共有を行っています。	今後も成長に伴う心身の変化等を保護者の方々から情報共有が出来るよう努めていきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	対象児童はいません。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧できるよう決められた場所へ保管しています。また、職員ミーティングや業務開始前後などに以前の事例を振り返り、意見交換も行っています。	事例共有はできていますが、書面に残しそびれたり、職員一人一人が気付いていないヒヤリハットもまだある為、さらに分析していきます。記入漏れがないよう、職員間で声を掛け合って当日か翌日には記入する習慣を作るよう改善していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	社外の研修に参加した職員が、他職員に伝達し、皆で虐待防止について学んでいます。社内では虐待防止委員会を設置し研修や情報交換の場を設けています。	定期的に行う必要がある研修内容の為、世間で起きている事故や事件を題材に勉強会を行うなど職員全員の意識をより高めていけるよう努力していきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	対象児童はいません。身体拘束を行わない支援をするよう意識しています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。